

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

資料2-3

令和 年 月 日

協議会名: 岡崎市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
【補助対象となる事業者 名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備 内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業に おいて、車両減価償却費等及び公有民営方式車 両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている 場合、離島航路に係る確保維持事業において離 島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を 受けている場合は、その旨記載】	【事業評価の評価対象期間 において、前回の事業評価 結果をどのように生活交通 確保維持改善計画に反映さ せた上で事業を実施したか を記載】	A・B・C 評価 【計画に基づく事業が適切に実 施されたかを記載。計画どおり 実施されなかった場合には、理 由等記載】	A・B・C 評価 【計画に位置付けられた定量的 な目標・効果が達成されたかを、 目標ごとに記載。目標・効果が 達成できなかった場合には、理 由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記 載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地 域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果 を生活交通確保維持改善計画にどのように反映 させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載 すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその 旨記載
名鉄バス㈱	額田支所市民病院線 額田センター～市民病院	・前回の二次評価において 「引き続き、地域と連携して 地域内フィーダー補助系統 の利用促進に取り組むととも に、今回把握したアンケート 結果を活用し、地域と連携 し、移動ニーズを反映した地 域内交通が構築されている ことを期待します。」と意見を いただいた。二次評価を踏 まえて、地域の移動ニーズ に合った交通手段を検討す るワークショップを愛知県主 導の下、地域と連携して実 施した。	A 事業は計画通り実施された。	B 【利用者数】未達成 目標: 6,078人 実績: 5,363人 【利用率】未達成 目標: 0.16% 実績: 0.14% 【要因】 人口減少とともに地域の高齢 化が進んでいるが、新規の利用 者が増えておらず、利用人数が 徐々に減少している。	【行政】 ・医療施設や市街地への移動の際に 必要な地域住民の生活の足として重要 な役割を担う路線であるため、地域住 民や事業者と連携し、路線の維持に努 めるとともに、高齢者バスの周知や公 共交通マップの配布などの公共交通の 利用促進を行う。 ・ワークショップの結果を踏まえ、移動 ニーズをより反映した交通になるように 事業者及び地域と検討をしていく。 【事業者】 ・利用状況等の現状分析や改善点等 の検討を行うとともに、運転手不足の 影響を考慮しつつ運行を継続する。

(株)西三交通	下山地区線A 桃ヶ久保～市民病院～岡崎げんき館前 下山地区線B 岡崎げんき館前～洞町～桃ヶ久保 下山地区線C 岡崎げんき館前～桃ヶ久保～北部診療所 下山地区線E 桃ヶ久保～豊田鉄工前～岡崎げんき館前	・前回の二次評価において「引き続き、地域と連携して地域内フィーダー補助系統の利用促進に取り組むとともに、今回把握したアンケート結果を活用し、地域と連携し、移動ニーズを反映した地域内交通が構築されていることを期待します。」と意見をいただいた。二次評価を踏まえて、地域の移動ニーズに合った交通手段を検討するワークショップを愛知県主導の下、地域と連携して実施した。 ・地域が中心となり、下山地区線で利用できる高齢者定期券の周知を行い、利用促進に努めた。 ・老人クラブで下山地区線を活用して、市街地等での活動を実施している。	A	事業は計画通り実施された。	A	【利用者数】達成 目標:3,249人 実績:4,279人 【利用率】達成 目標:1.67% 実績:2.33% 【要因】 特認校制度による小学生の定期的な利用が増加したことが、達成要因と考えられる。 高校生以下の利用においては、定期的な利用の増加、学生利用の長期的な需要が見込まれている。高齢者の診療所への移動は若干の減少が見られるが、自家用車等の利用が困難なかたにとっては、医療施設への移動に不可欠なため、地域にとって必要な路線である。	【行政】 ・地域が中心となり利用促進に取り組んだ結果、特認校制度による小学生や、高校生の定期的な利用により目標が達成されており、引き続き各施策を実施するとともに、地域や事業者と連携し、路線の維持に努める。 ・ワークショップの結果を踏まえ、移動ニーズをより反映した交通になるように事業者及び地域と検討をしていく。 【地域】 ・老人クラブのイベント活用、バス停整備等の地元主体の活動について、引き続き実施してもらえるよう地元老人クラブ等への周知に努める。 ・運行内容のチラシの配布、利用状況やお得なバスの使い方の周知など、一層の周知に努めるとともに、利用者の声を聞き需要把握に努める。 【事業者】 ・利用状況等の現状分析や改善点等の検討を行うとともに、運転手不足の影響を考慮しつつ運行を継続する。また、地元のイベント周知に協力するなど運行車両を活用した利用促進を引き続き行う。
---------	---	---	---	---------------	---	---	---

(株)西三交通	形埜地区線(南大須・鍛埜ルート) 北部診療所～須渕橋～北部診療所 形埜地区線(切山・小久田・毛呂・井沢ルート) 北部診療所～切山横手辻～北部診療所	・前回の二次評価において「引き続き、地域と連携して地域内フィーダー補助系統の利用促進に取り組むとともに、今回把握したアンケート結果を活用し、地域と連携し、移動ニーズを反映した地域内交通が構築されていることを期待します。」のご意見をいただいた。二次評価を踏まえて、地域の移動ニーズに合った交通手段を検討するワークショップを愛知県主導の下、地域と連携して実施した。	A 事業は計画通り実施された。	B 人口減少とともに地域の高齢化が進んでいるが、新規の利用者は増えておらず、利用人数が徐々に減少している。利用者の主な移動先が診療所のため、地域住民の日々の生活を支え、自家用車等の利用が困難な方にとっては不可欠な路線である。	【行政】 ・実利用者数が少なく、定期的な利用者が一人でも乗車できなくなると利用者数及び利用率の目標達成に影響が出るが、利用者にとっては必要不可欠な路線であるため、地域住民や事業者と連携し、路線の維持に努める。 ・ワークショップの結果を踏まえ、移動ニーズをより反映した交通になるように事業者及び地域と検討をしていく。 【地域】 ・形埜地区線で利用できる高齢者定期券の購入費用の一部を、地域が助成する仕組みなどを検討していく。 ・運行内容のチラシの配布、利用状況やお得なバスの使い方の周知など、一層の周知に努めるとともに、利用者の声を聞き需要把握に努める。 【事業者】 ・接続する路線で利用できる高齢者バスや小学生の遠足等で積極的に利用していただけるよう公共交通利用について一層の周知を図る。 ・利用状況等の現状分析や改善点等の検討を行うとともに、運転手不足の影響を考慮しつつ運行を継続する。また、地元のイベント周知に協力するなど運行車両を活用した利用促進を引き続き行う。
----------------	---	---	------------------------	---	--

(株)西三交通	宮崎地区線(大雨河ルート) 宮崎診療所～高雲寺～宮崎診療所 宮崎地区線(千万町ルート) 宮崎診療所～木下公民館～宮崎学区 市民ホーム前	・前回の二次評価において「引き続き、地域と連携して地域内フィーダー補助系統の利用促進に取り組むとともに、今回把握したアンケート結果を活用し、地域と連携し、移動ニーズを反映した地域内交通が構築されていることを期待します。」と意見をいただいた。二次評価を踏まえて、地域の移動ニーズに合った交通手段を検討するワークショップを愛知県主導の下、地域と連携して実施した。	A 事業は計画通り実施された。	B 【利用者数】未達成 目標:229人 実績:168人 【利用率】未達成 目標:0.73% 実績:0.52% 【要員】 人口減少とともに地域の高齢化が進んでいるが、新規の利用者は増えておらず、利用人数が徐々に減少している。利用者の主な移動先が診療所のため、地域住民の日々の生活を支え、自家用車等の利用が困難なかたにとっては不可欠な路線である。	【行政】 ・実利用者数が少なく、定期的な利用者が一人でも乗車できなくなると利用者数及び利用率の目標達成に影響が出るが、利用者にとっては必要不可欠な路線であるため、地域住民や事業者と連携し、路線の維持に努める。 ・ワークショップの結果を踏まえ、移動ニーズをより反映した交通になるように事業者及び地域と検討をしていく。 【地域】 ・宮崎地区線で利用できる高齢者定期券の購入費用の一部を、地域が助成する取組みなどを検討していく。 ・運行内容のチラシの配布、利用状況やお得なバスの使い方の周知など、一層の周知に努めるとともに、利用者の声を聞き需要把握に努める。 【事業者】 ・接続する路線で利用できる高齢者バスや小学生の遠足等で積極的に利用していただけるよう公共交通利用について一層の周知を図る。 ・利用状況等の現状分析や改善点等の検討を行うとともに、運転手不足の影響を考慮しつつ運行を継続する。また、地元のイベント周知に協力するなど運行車両を活用した利用促進を引き続き行う。
---------	---	--	-----------------	--	--

(株)西三交通	豊富・夏山地区線(夏山ルート) 市道～ハズノモト～星野クリニック 豊富・夏山地区線(鳥川ルート) 額田センター～平針～星野クリニック	・前回の二次評価において「引き続き、地域と連携して地域内フィーダー補助系統の利用促進に取り組むとともに、今回把握したアンケート結果を活用し、地域と連携し、移動ニーズを反映した地域内交通が構築されていることを期待します。」と意見をいただいた。二次評価を踏まえて、地域の移動ニーズに合った交通手段を検討するワークショップを愛知県主導の下、地域と連携して実施した。	A	事業は計画通り実施された。	B	【利用者数】未達成 目標: 229人 実績: 209人 【利用率】未達成 目標: 0.17% 実績: 0.14% 【要員】 人口減少とともに地域の高齢化が進んでいるが、新規の利用者は増えておらず、利用人数が徐々に減少している。利用者の主な移動先が診療所のため、地域住民の日々の生活を支え、自家用車等の利用が困難なかたにとっては不可欠な路線である。 【行政】 ・実利用者数が少なく、定期的な利用者が一人でも乗車できなくなると利用者数及び利用率の目標達成に影響が出るが、利用者にとっては必要不可欠な路線であるため、地域住民や事業者と連携し、路線の維持に努める。 ・ワークショップの結果を踏まえ、移動ニーズをより反映した交通になるように事業者及び地域と検討をしていく。 【地域】 ・豊富・夏山地区線で利用できる高齢者定期券の購入費用の一部を、地域が助成する取組みなどを検討していく。 ・運行内容のチラシの配布、利用状況やお得なバスの使い方の周知など、一層の周知に努めるとともに、利用者の声を聞き需要把握に努める。 【事業者】 ・接続する路線で利用できる高齢者バスや小学生の遠足等で積極的に利用していただけるよう公共交通利用について一層の周知を図る。 ・利用状況等の現状分析や改善点等の検討を行うとともに、運転手不足の影響を考慮しつつ運行を継続する。また、地元のイベント周知に協力するなど運行車両を活用した利用促進を引き
---------	---	---	---	---------------	---	---

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和 年 月 日

協議会名:	岡崎市地域公共交通会議
-------	-------------

評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持改善費国庫補助金
----------	------------------------

地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	【目指すべき将来像】 本市では、他の分野政策・計画との連携・連動を図りながら、地域公共交通網の形成及び確保に資するマスタープランとするため、令和4年3月に岡崎市地域公共交通計画を策定し、公共交通の基本理念及び基本目標を次のとおり設定した。 (基本理念) 新たなくらしと活力の創造を支える交通体系 (基本目標) ①交流を支え都市の魅力を高める、②地域のニーズにあった地域主体の交通、③人と環境にやさしい交通、④新たな社会に対応したスマートな交通 【事業実施の目的・必要性】 買い物や通院など、中山間地域拠点や診療所など日常生活において最低限必要な施設などとの接続のため週1日程度の運行を確保・維持することを目的とする。地域のコミュニティの活性化を維持するため、また、住民の誰もが外出する機会を確保するために、存続させていくことが必要な路線である。
-----------------------------	---